

令和2年度 第5回 安曇野暮らし支援協議会 会議概要

1	審議会名	令和2年度 第5回 安曇野暮らし支援協議会
2	日 時	令和3年3月25日 午後1時30分から午後2時50分まで
3	会 場	安曇野市役所3階 共用会議室 306
4	出席者	望月委員(会長)、中澤委員(副会長)、高井委員、宮崎委員、萩原委員、北林委員、横田委員、大竹委員
5	市側出席者	野口政策経営課長、赤沼政策経営課長補佐、藤原企画担当主査、小倉企画担当主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和3年3月26日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) 第5回 安曇野オンライン移住相談会の実施報告について
  - (2) 令和2年度の事業報告について
  - (3) 安曇野暮らし支援協議会 HP のリニューアルについて
- 4 協議事項
  - (1) 令和3年度の事業計画について
  - (2) その他
- 5 閉会

会議概要

- 1 報告事項
  - (1) 第5回 安曇野オンライン移住相談会の実施報告について
 

【事務局から、オンライン移住相談会の実施について報告】

    - ・1件、通信トラブルがあったということだが、トラブルがあった際の対応方法を準備しておく必要があると思う。
    - ・オンラインの相談会だと話が広がっていかない。対面でのリアルな相談会とはずいぶん違うなという印象がある。
    - ・オンラインでの相談会は、1組20分程度の時間が最適だと思うが、話も広がっていかないし、これまでやってきたリアルな対面での個別相談会の代替にはならないなと思った。オンラインでの相談会は、今後の対面でのリアルな相談会につなげていくことを念頭に進めていくことが重要。
  - (2) 令和2年度の事業報告について
 

【事務局から、令和2年度事業について報告】

    - ・前回の協議会で、市にZoomの導入について検討をお願いしたが、どうなったか。  
⇒令和3年度は、オンラインでの移住相談も充実させていく予定。このため、主に移住相談対応に利用できるパソコンを用意し、Zoomも活用して取組を進めていく。  
それと、県のほうで毎年1月1日現在の県内市町村の転入、転出状況について公表をして

いて、2020 年中の実績について本市は転入が転出を上回った。こうした実績からも、一定の効果は挙がっているのではないかと考えている。

・今年度は 122 件の移住相談があったということだが、この相談対応はすべて職員が行ったのか。

⇒この 122 件については、すべて市職員で対応した。

・この 122 件のうち、おためし住宅の利用者は含んでいるのか。

⇒この数字の中には含まれていない。

・おためし住宅が観光目的ではなく、移住に結びつくように有効に利用されるためにはどうしたらよいかということも来年度は検討して行ってほしい。

### (3) 安曇野暮らし支援協議会 HP のリニューアルについて

#### 【事務局から、HP のリニューアルについて報告】

・リニューアルに伴い、空き家バンク利用者登録がなくなり、移住希望者登録フォームが新たに設けられるため、この移住希望者登録フォームから再度登録を促すためのメールを一斉送信するということだが、現在、空き家バンクには 3,000 人を超える人が登録している。この登録した人たちに一斉に再登録のメールを送っても、よほど必要性を感じる人でない限り登録は行わないと思う。この空き家バンク登録者リストは今後も移住定住促進事業の範囲内で有効に使っていくことも考えてほしい。

また、新たなサイトを見る中で、市の防災マップが最新のものになっていなかったのも、最新のものを掲載するようにしてほしい。

⇒御指摘の点については対応させていただく。

## 2 協議事項

### (1) 令和 3 年度の事業計画について

#### 【事務局から、令和 3 年度の事業計画について説明】

・意見等は特になし

【事務局が提案した計画に沿って事業を進めていくこととなった。】

【事務局から、来年度の移住定住促進事業に関して、コロナ禍という社会状況も踏まえた上で、どのような形で進めていくことがよいか、各委員から意見を求めた】

・オンラインの移住セミナーや相談会は限界があると感じた。

・安曇野市内には、いろんな方がいろんな活動に取り組んでいて、移住後の「つながり」に結びつく取組を行っている方もいるので、そういった方を市の相談員に認定していくなど、新たな取組を期待したい。

・安曇野市にも、県が行っている「信州暮らしパートナー」のような取組、移住相談員を認定するような取組があってもよいのではないかと思う。

・今年度は「夏の安曇野体験会」、「冬の安曇野体験会」が実施できなくて残念だった。来

年度は、コロナの状況にもよるが、可能であれば実施したい。

- ・安曇野暮らし支援協議会には、さまざまな団体から委員が選出されているので、市も協議会の構成団体をもっと活用すればよいと思う。例えば、宅建協会や全日といった不動産関係の団体も構成団体となっているので、不動産関係の相談であればこうした団体や委員をもっと利用してほしい。
- ・コロナ禍ということもあり、情報発信が大事になってくると思う。安曇野暮らし支援協議会のホームページもリニューアルされるので、情報発信にも力を入れていってもらいたい。
- ・ハザードマップは移住にあたって大事な情報になってくると思うので、安曇野暮らし支援協議会のホームページの中でも、ハザードマップを見つけやすい、見やすいような構成にしてもらえるとういと思う。
- ・安曇野市への移住を希望している人は多いと思うので、セミナーや相談会などを実施すればするほど効果が挙がると思う。実施が可能な状況になれば、やはりリアルで対面で移住相談などは実施したい。
- ・対面での移住相談会などが実施可能な状況になったら、オンライン移住セミナーやオンライン移住相談会に参加した人にも連絡をして、対面での移住相談会への参加につなげていくような取組を期待したい。
- ・以前は、安曇野市への移住を考えている人は、安曇野ファンで安曇野のことをある程度知っている人が多かったが、今は、移住に関する問い合わせをしてくる人の傾向として、安曇野市の地域のこと、地名のこと、コミュニティことなどを全く知らない。こうした傾向を踏まえ、より一層セミナーや体験会でつながりを作っていくことが大切になってきていると思う。
- ・コロナ禍の中では、オンラインが主体になることは仕方がない面もあるが、やはりリアルな対面での相談会、セミナーが開催できれば理想だと思う。
- ・これまで安曇野暮らし支援協議会で行ってきた東京や大阪といった首都圏での移住セミナーや、夏や冬の現地体験会は参加者から大変好評で、開催が可能な状況になれば、是非これからも継続して実施していってもらいたい。

## (2) その他

**【事務局から、おためし住宅利用者に提供する移住相談メニューについて説明】**

- ・この安曇野暮らし支援協議会もせっかく官民協働でやっているのだから、今回は官のほうのメニュー表ができたということなので、ここに民のほうのメニューも組み合わせることができれば理想的だと思う。

**【安曇野暮らし支援協議会委員から退任のあいさつ、事務局から異動のあいさつ】**

<終了 14:50>

以上